

分布を拡大する
外来哺乳類
アライグマ
ハクビシン
ヌートリア



分布を拡大し続ける 外来哺乳類

環境省では、1973年(昭和48年)から40年以上にわたって実施している自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)の一環として、動植物の分布を調査し、その結果をとりまとめて公表してきました。

本パンフレットでは、生態系被害などを引き起こして問題となっているアライグマ・ハクビシン・ヌートリアについて2015年(平成27年)から2017年(平成29年)までに全国の都道府県や市町村にご協力いただき、分布状況を取りまとめました。

これら3種の哺乳類は、人により国外から日本国内に持ち込まれた生物であり、分布の拡大が確認されています。

特定外来生物[※]

アライグマ

ネコ目アライグマ科 *Procyon lotor*



頭胴長 42～60cm
尾長 20～41cm
体重 4～10kg

原産地:北米大陸

影響と対策: トウモロコシ、スイカなどの農作物や養殖魚への被害がみられます。家屋などに侵入し、爪痕を残したり、天井に穴を開けたり、糞尿による被害をもたらすこともあります。アライグマ回虫や狂犬病など、人や動物に共通する感染症を引き起こす危険性があります。2005年(平成17年)に外来生物法による特定外来生物に指定され、全国的に捕獲などによる防除が進められています。繁殖力が強いいため、自治体と地元(町内会、農家、猟友会など)の連携による組織的な対応が重要です。

アライグマが最初に報告されたのは

アライグマの野生化が国内で最初に報告されたのは1962年(昭和37年)、愛知県犬山市の事例であるとされています。同市にある動物飼育施設で飼育されていたアライグマ12頭が柵から脱走したものです。手先が器用で力も強く、木登りも巧みなアライグマは、安易な飼育体制ですぐに脱走してしまいます。しかし、当時はそうした認識も十分ではなかったのでしょうか。そのようななか、1977年(昭和52年)にはアライグマを主役としたテレビアニメが放映されると、アライグマブームがおこり、ペット用に大量に輸入されるようになりました。

現在、国内に定着しているアライグマは、この時期に輸入された個体に由来すると考えられます。過去において、主な分布が北海道、関東、東海、近畿の一部地域に散在しているのは、様々な地域で多発的に野生化が生じたことによるものでしょう。

雑食性で多様な環境に適應できるアライグマは、分布域の拡大が著しく進んでいます。生態系への悪影響のみならず、農業や生活環境への被害を防止する観点からも、分布拡大の抑止、生息数の減少を目指した対策が必要となっています。



特徴

体は灰色



縞模様の尾

白いヒゲ



左右につながる
目の周りの黒い模様



前足 後足

ハクビシン

ネコ目ジャコウネコ科 *Paguma larvata*



頭胴長 40～70cm
尾長 40～45cm
体重 2～4kg

原産地：東南アジア、中国南部、台湾など

影響と対策：果実を中心に農作物への被害が生じています。家屋などに侵入し、糞や尿を排泄するため、天井のシミ汚れや異臭、ダニの発生など人への健康被害をもたらすこともあります。被害報告は年々増加しており、被害発生地域は都市部で拡大しています。被害の防止を図るため、侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲が行われています。

ハクビシンは外来種？

ハクビシンについては、もともと日本にいた在来種なのか、あるいは外来種なのかという議論が長く続いてきました。ハクビシンの生息が初めて記録されたのは1943年（昭和18年）、静岡県でのことです。その頃には既に、東北、東海、四国の3地域に不連続な分布域が確立されていたようです。古くは江戸時代にボルネオ島から持ち込まれた記録があり、戦時中にも毛皮用に輸入されていました。

こうした状況から、外来種である可能性が高いと考えられてきましたが、最近になって遺伝子解析が行われ、日本のハクビシンは台湾などから入ってきた外来種であると結論づけられました。2015年（平成27年）に公表された「生態系被害防止外来種リスト」では、重点対策外来種として掲載され、甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い種と位置づけられています。



特徴

体は茶褐色 細長い胴 細長い尾

顔の中央に白い模様



桃色の鼻

目の下に
白い模様



前足 後足



特定外来生物

ヌートリア

ネズミ目ヌートリア科 *Myocastor coypus*



頭胴長 50～70cm
尾長 35～50cm
体重 6～9kg

原産地：南米大陸

影響と対策：イネや水辺周辺の農作物への被害のほか、川やため池の土手や堤防に巣穴を掘って崩す被害も生じています。2005年（平成17年）に外来生物法による特定外来生物に指定され、西日本を中心に捕獲や侵入防止柵の設置などの対策が進められています。

毛皮のために持ち込まれたヌートリア

ヌートリアは主に戦前から戦後にかけて、毛皮を採取することを目的に輸入されました。各地にヌートリアの養殖施設が設置され、1944年（昭和19年）には全国で約4万頭が飼育されていました。戦後、養殖施設の閉鎖などにより、飼育個体が野外に放たれるなどし、各地で野生化しました。

現在、ヌートリアが定着して生息密度が高い地域では、農作物被害が発生しているほか、堤防の強度低下といった治水上の問題も懸念されています。また、兵庫県のため池では、水生植物を食害し、在来種であるベッコウトンボの生息環境を壊滅させるなどの生態系への被害も発生しています。

近年は、西日本のうち、中国地方での分布拡大が特に顕著です。

特徴

歯はオレンジ色



毛がほぼ
生えていない、
細長い尾

水かきがある後足



前足 後足

アライグマ

北海道・本州・四国・九州に定着し、分布域の拡大が著し



2005～2006年（平成17～平成18年）のアライグマの分布（種の多様性調査：生物多様性センター）と最新の分布を比較すると、分布範囲が著しく拡大しています。とくに北海道日本海側、青森県西部、宮城県仙台平野から福島県浜通りで拡大し、関東地方、東海地方、近畿地方では市街地を含む全域で確認されるようになりました。中国地方、四国地方（高知県以外）でも分布が拡大し、九州では北部での分布が広がり、宮崎・鹿児島両県でも情報が得られています。



アライグマの被害を見分けるポイント

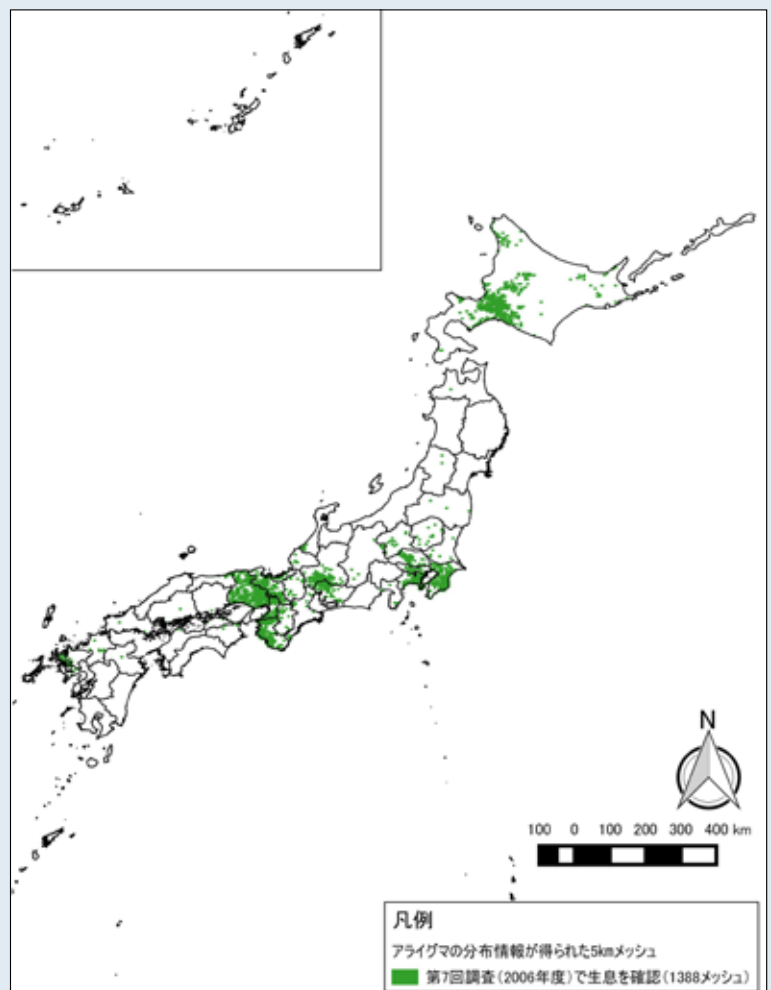
アライグマは一般に夜間に活動するため、目撃情報が得られにくく、被害の初期段階ではアライグマによる被害であると認識されないことが多いようです。

ただし、指が長く器用な前肢を持つため、スイカなどの皮に小さな穴を開けて果肉だけをすくいだす、トウモロコシの皮をむくなど、アライグマに特徴的な加害形態もあり、被害を見分けるポイントとなります。



食害されたスイカ（鈴木和男撮影）

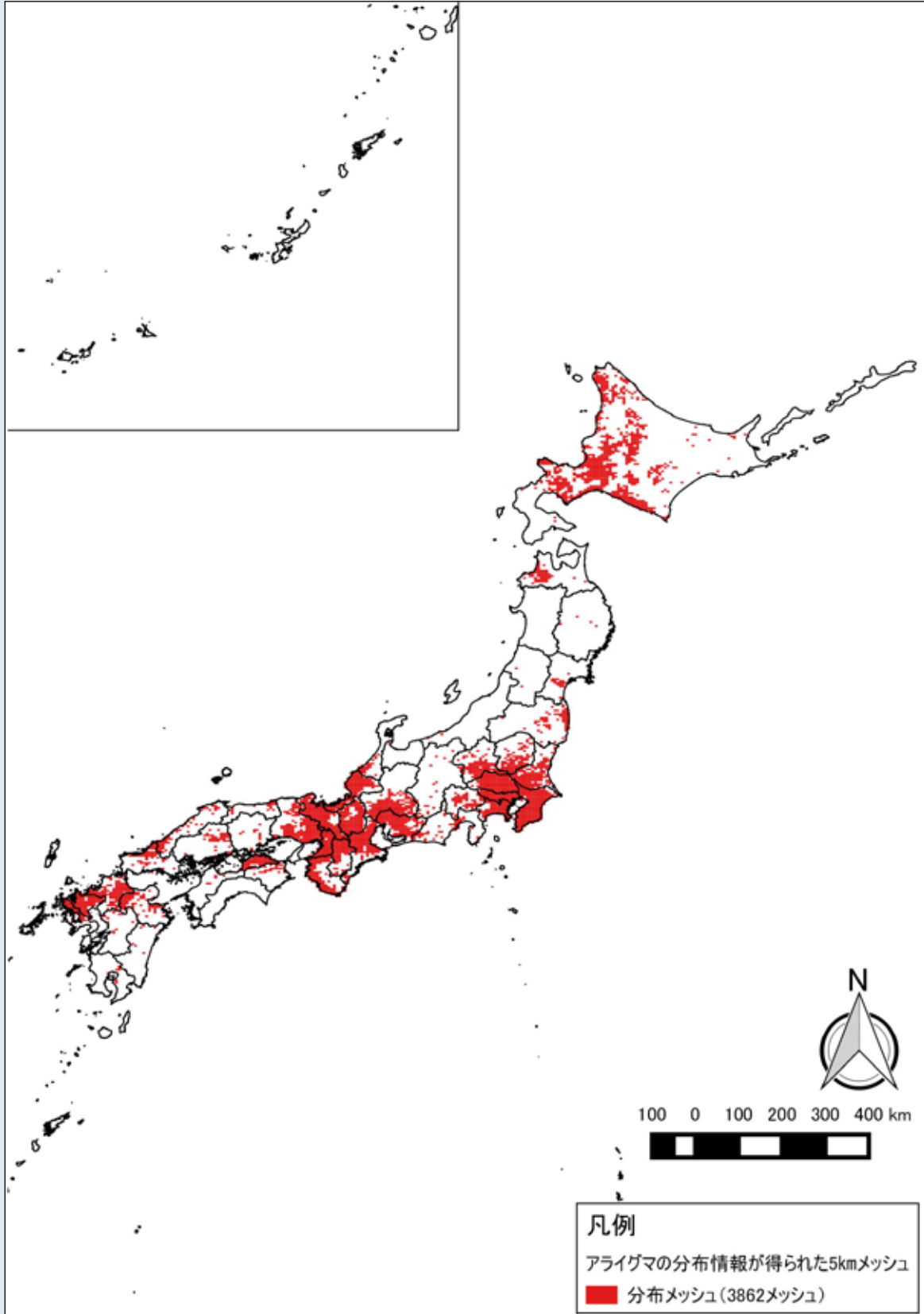
約10年前の分布状況（2005～2006年）



引用文献：環境省 自然環境局生物多様性センター（2007）平成18年度自然環境保全基礎調査 種の多様性調査（アライグマ生息情報収集）業務報告書

い

最新^の分布状況 (2010 ~ 2017 年)



分布図は、市町村アンケート、有害捕獲等の捕獲位置情報、都道府県からの確認情報、Web 情報等から収集したデータに基づき作成した。分布情報が得られた 5kmメッシュが赤で表示されているが、恒常的な分布に限らず、一時的に目撃された情報等も含まれているため注意が必要である。

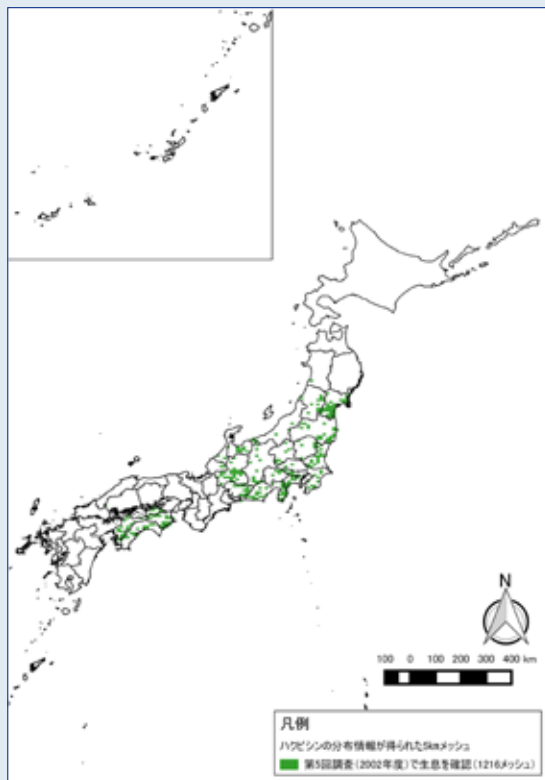
ハクビシン

本州・四国ではよくみられる存在



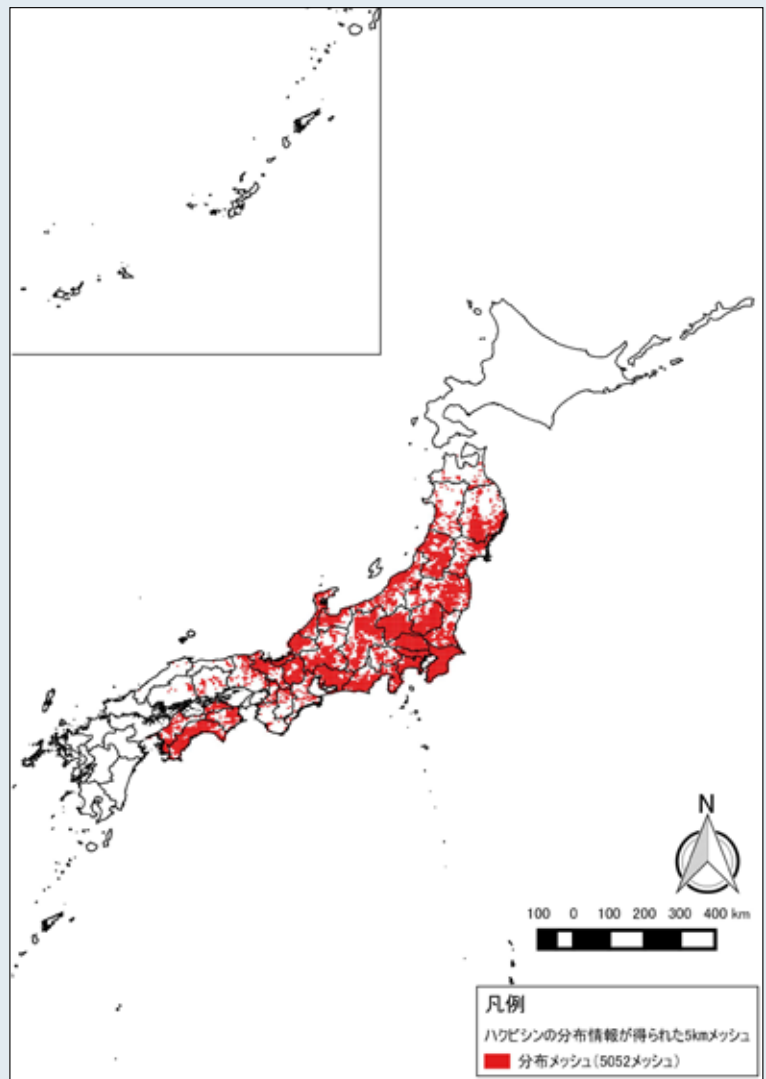
2002年（平成14年）以前のハクビシンの分布（※注）と並べてみると、分布範囲が拡大しています。北海道地方からの分布は近年確認されていませんが、青森県以南の東北地方では広くみられます。関東地方から近畿地方では、市街地を含む全域で確認されています。中国地方では一部地域で分布が拡大し、四国地方では、ほぼ全域に分布する傾向に変わりはありません。なお、九州地方では、まだ確実な分布情報が得られていません。

過去の分布状況（2002年以前）



引用文献：環境省 自然環境局生物多様性センター（2002）自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書（哺乳類）

最新の分布状況（2010～2017年）



注）過去の調査（2002年以前）では、全市町村へのアンケート調査等は実施しておらず、今回の調査方法との相違がみられることから、分布状況を単純に比較することは、必ずしも適切ではありません。

分布図は、市町村アンケート、有害捕獲等の捕獲位置情報、都道府県からの確認情報、Web情報等から収集したデータに基づき作成した。分布情報が得られた5kmメッシュが赤で表示されているが、恒常的な分布に限らず、一時的に目撃された情報等も含まれているため注意が必要である。

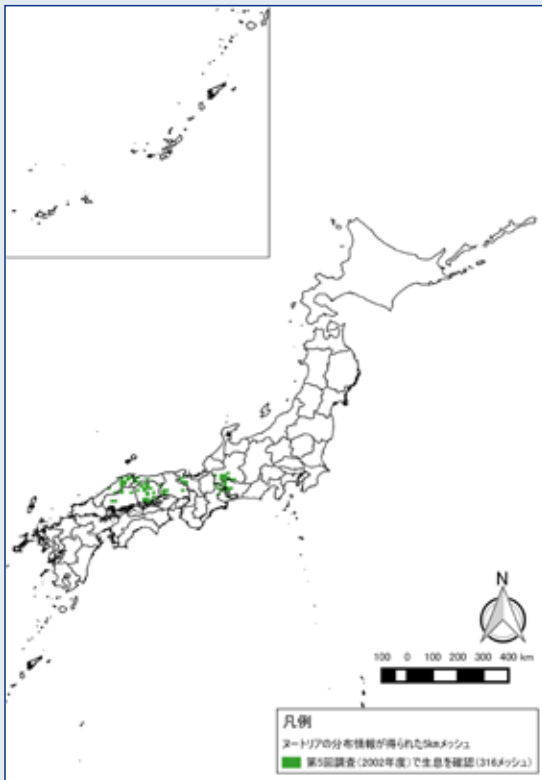
ヌートリア

本州西部の河川沿いに拡大中



2002年（平成14年）以前のヌートリアの分布と並べてみると（※注1、注2）、東海地方以西に分布するという基本的なパターンには変化はありませんが、2002年の分布域よりも周辺の広い範囲で確認され、特に近畿・中国地方にその傾向が目立っています。淡路島、小豆島のような瀬戸内海の島嶼でも確認されていますが、四国・九州地方への拡大は確認されていません。

過去の分布状況（2002年以前）

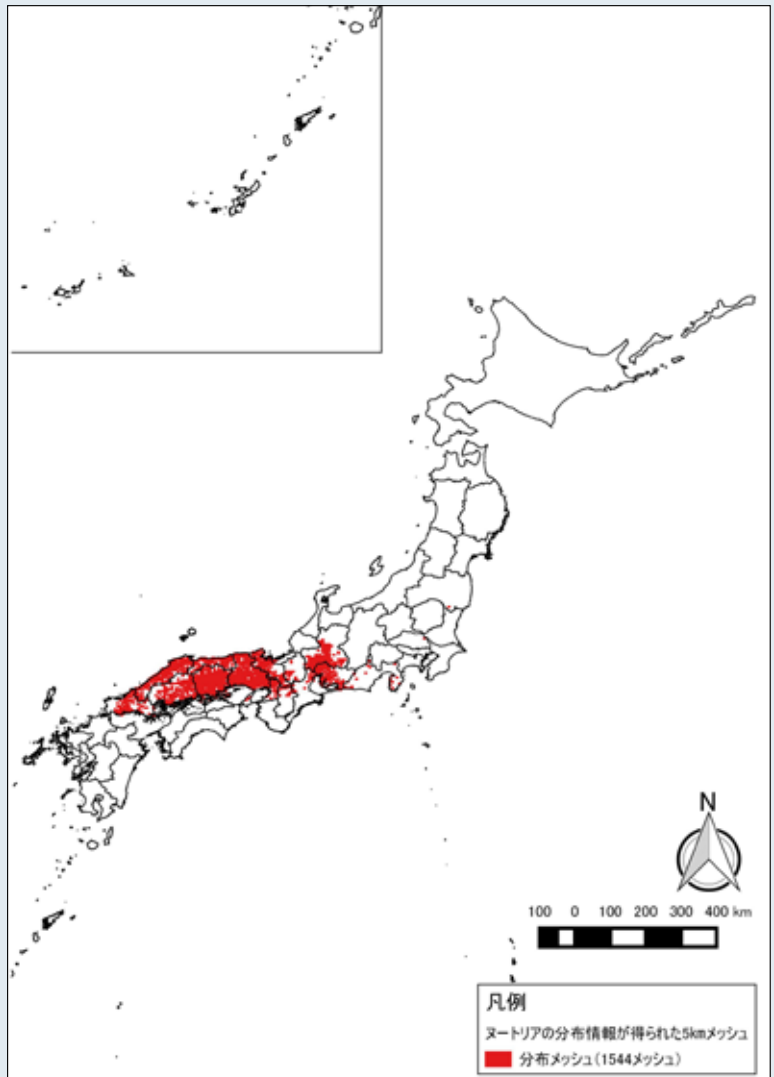


引用文献：環境省 自然環境局生物多様性センター（2002）自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書（哺乳類）

注1) 過去の調査（2002年以前）では、全市町村へのアンケート調査等を実施しておらず、今回の調査方法との相違がみられることから、分布状況を単純に比較することは、必ずしも適切ではありません。

注2) 種の多様性調査（生物多様性センター）では、「やや情報不足」と評価されています。

最新の分布状況（2010～2017年）



分布図は、市町村アンケート、有害捕獲等の捕獲位置情報、都道府県からの確認情報、Web情報等から収集したデータに基づき作成した。分布情報が得られた5kmメッシュが赤で表示されているが、恒常的な分布に限らず、一時的に目撃された情報等も含まれているため注意が必要である。

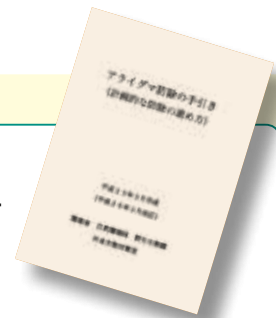


詳しくは環境省のウェブで
ご覧になれます！

外来生物対策の手引き・調査報告書

環境省自然環境局では、アライグマを戦略的に防除するための考え方
やポイントを示したマニュアルを公表しています。

https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_raccoon.pdf



環境省地方環境事務所では、各地域の特性に合わせたアライグマなどの外来生物対策の
ための手引きや調査報告書を作成しています。

北海道地方	http://hokkaido.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_2.html
東北地方	http://tohoku.env.go.jp/wildlife/mat/m_2.html
関東地方	http://kanto.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_1.html
中部地方	http://chubu.env.go.jp/nature/mat/m_3_1_3.html
近畿地方	http://kinki.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_1.html
中国・四国地方	http://chushikoku.env.go.jp/wildlife/m_3_1/index.html
九州地方	http://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/m_2.html

動物の分布情報

アライグマなどの外来生物に限らず、日本に生息する動物の分布に関するこれまでの調査
結果や分布情報については、生物多様性センターのホームページで公開しています。

http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_list_h.html

外来生物法・特定外来生物

外来生物法	https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/index.html
特定外来生物等一覧	https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html
外来種の防除について	https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/index.html

本パンフレットに関するお問い合わせは



環境省自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1
TEL : 0555-72-6031 FAX : 0555-72-6035

平成 30 年 3 月

発行 環境省自然環境局 生物多様性センター
制作・編集 一般財団法人 自然環境研究センター
写真提供 一般財団法人 自然環境研究センター
デザイン 株式会社アートポスト